

# 新聞・雑誌から見る現代日本

しんぶん ざっし み げん だい にほん

## ◆ 第23回 ◆

だい かい

# 「18年間の単身赴任」

ねん かん たん しん ふ にん

このコーナーでは、新聞・雑誌の記事を通して現代日本事情を紹介するとともに、日本語を教える先生方が、新聞・雑誌の記事などの生教材をどうやって教材化し、中・上級の日本語の授業にどう活用できるかを提案していきます。今回は「団塊の世代」に関する記事を取り上げますが、実際の教室活動の流れにそって質問と記事を提示しました。

「読む前に」と<キーワード>の部分は、いきなり記事を読ませるのではなく、記事に関する背景知識を整理して、読む準備をさせることを目的にしています。「読む前に」の質問は、学習者が話題に関してどんな情報やイメージを持っているかを引き出したり、記事の内容を予測させたりすることで、記事を読む意欲を高めることを狙っています。「読んだ後で」の質問は、学習者に記事を読んで自分の頭の中に作り上げたイメージを表現させたり、記事への反応を他の学習者と交換させたりすることを目的にしています。

## 読む前に

よ まえ

第二次世界大戦直後の第一次ベビーブーム（1947年～1949年）で生まれた約700万人を指して「団塊の世代」と呼びます。前後の世代と異質だと捉えた作家堺屋太一が名づけました。「団塊の世代」は時代を特徴づける数々の現象を生み出しました。子どもの中には「受験戦争」に立ち向かい、青年期には「学生運動」を生み、社会に出てからは「企業戦士」として高度経済成長を支えました。結婚期には第二次ベビーブーム（1971年～1974年）が起き、「団塊のジュニア」という人口の多い世代を作り出しました。団塊の世代は非常によく働きましたが、中年になるとストレスから「過労死」したり、「平成の大不況」の影響で「リストラ」されたりもしました。2007年から2010年にかけて団塊の世代が一斉に定年

退職を迎えるため、労働市場に急激な変化が生じたり、年金制度に混乱をもたらしたりするという予測がされています。このような、団塊の世代の定年退職が及ぼす多大な影響を「2007年問題」と呼んでいます。

今回は、そんな団塊の世代である一組の夫婦の話を通して家族や仕事に対する日本人の価値観を考えたいと思います。

## <キーワード>

単身赴任、ストレス、転勤、定年、転職

たんしんふにん てんきん ていねん てんき

質問1：あなたの国にも「団塊の世代」のような、時代を特徴づける世代がありますか。

質問2：あなたが夫あるいは妻だったら、自分あるいは配偶者の単身赴任に賛成しますか。

はい 配偶者の単身赴任に賛成しますか。

はい 配偶者の単身赴任に賛成しますか。

産経新聞（朝刊）2006年2月6日「団塊の妻たちよ18年間の単身赴任」  
『日本語教育通信』2006年5月「新聞・雑誌から見る現代日本」  
第23回に掲載している記事は、著作権の関係で掲載できません。

▲産経新聞（朝刊）2006年2月6日  
さんけいしんぶん ちようかん ねん がつむいか

**読んだ後で**

よ あと

質問3：記事を読んで、夫の生活について適切なものを下のア～オの中から選んで（ ）に入れてください。  
しつもん きじ よ おっと せいかつ てきせつ した なか えら い

夫の生活 <small>おっと せいかつ</small>		妻の生活 <small>つま せいかつ</small>	
30歳 <small>さい</small>	6歳年下の妻と結婚 <small>さいとしした つま けっこん</small>	24歳 <small>さい</small>	結婚 <small>けっこん</small>
30代半ば <small>だいなか</small>	( ① )		3人の子どもを育てる <small>にん こ そだ</small>
	( ② )		
60歳 <small>さい</small>	( ③ )	54歳 <small>さい</small>	夫が定年 <small>おっと ていねん</small>
62歳 <small>さい</small>	( ④ )	56歳 <small>さい</small>	夫が退職してずっと家にいる <small>おっと たいしよく いえ</small>
64歳 <small>さい</small>	( ⑤ )	58歳 <small>さい</small>	ハローワーク（職業紹介所）を訪ねる <small>しよくぎょうしょうかいじょ たず</small>

- ア. 常務取締役で定年退職して関連会社に再就職  
じようむ とりしまりやく ていねんたいしよく かんれんがいしゃ さいしゅうしよく
- イ. 東京転勤  
とうきょうてんきん
- ウ. 任期途中に役員で退職  
にんき とうちゆう やくいん たいしよく
- エ. 通算18年間合計4回単身赴任  
つうさん ねんかんごうけい かいたんしんふにん
- オ. 現在悠悠自適の生活をしている  
げんざいゆうゆうじてき せいかつ

活動Ⅰ：記事を読んで夫と妻それぞれの視点から次の事項についてクラスやグループで話し合ってみましょう。

この事項には正答はありません。いろいろな考えを出し合って話してください。

<夫の視点から>

A：「長男だから拠点を親のそばから離したくない」というのはなぜでしょうか。また、この考え方についてあなたはどのように考えますか。

B：「東京は住むところじゃない」という言葉はどういう考えから出たのでしょうか。

C：「一家で行ったら帰ってこれなくなる」というのはなぜでしょうか。

<妻の視点から>

D：ハローワーク（職業紹介所）をたずねることについて、まさか思いもよらなかったと言っているのはなぜでしょうか。

E：なぜ新聞記事を思わず切り抜きしたのでしょうか。

F：夫が結局「お客さま」だったというのは、どういう意味でしょう。

<その他の事項>

G：「転勤はサラリーマンにつきもの」という考え方や、転勤のシステムを持つ仕事の形態についてあなたはどのように考えますか。

H：通算18年の単身赴任生活について、あなたはどのように考えますか。

I：「そのツケが一気に回ってきた」のツケとはどんなツケだと思いますか。

活動Ⅱ：もし最初の転勤の話が持ち上がったときに、転勤を断ることはできたでしょうか。また、もし断ったらどうなっただろうと思いますか。

活動Ⅲ：グループで上記の事項について話し合ったあとロールプレイをしてみましょう。それぞれ夫と妻になって、夫は妻を趣味の山登りに誘ってください。妻はその誘いを受けるか断るか理由も考えて答えてください。

<解答例>

質問1：(省略)

質問2：(省略)

質問3：①イ ②エ ③ア ④ウ ⑤オ

団塊の世代に関する参考文献や参考ウェブサイトを見てください。

◆ (新版)『団塊の世代』(堺屋太一、文春文庫、1976年)

◆『団塊の世代「黄金の十年」が始まる』(堺屋太一、文芸春秋、2005年)

◆株式会社野村総合研究所「NEWS RELEASE」2004年12月20日分  
<http://www.nri.co.jp/news/2004/041220.html>

◆「団塊世代の退職と日本経済に関する研究会」報告書  
<http://www.mof.go.jp/jouhou/soken/kenkyu/zk068/zk068.pdf>

◆フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』<http://ja.wikipedia.org/wiki/> →「団塊の世代」で検索してみてください。

今回取り上げたテーマや練習案についてのご意見をお待ちしています。また、今回の記事を使って授業をしたときの様子や結果などを編集部までお寄せください。このコーナーの担当：柴原智代、北村武士（日本語国際センター専任講師）